

生産性向上計画書 【記載例】

1 事業者名	〇〇〇〇株式会社
2 計画策定の背景・必要性	弁当製造事業の業績拡大に伴い、大量調理ができるような体制整備が必要となった。中でも下処理・仕込みがボトルネックとなっているため、これらの効率化を図る必要がある。
3 計画の内容 ※(2)取組項目は該当する部分のみ記載すること。	<p>(1)目的・概要等 弁当製造にあたり、総菜を一度に大量に調理する必要がある。機材の更新・導入によりボトルネックとなっている仕込みの効率化を図る。</p> <p>(2)取組項目</p> <p>① 作業環境の整備（5Sによるムダ・ミス削減、安全向上等）</p> <p>② 動線・レイアウトの改善</p> <p>③ 業務手順の見直し等（工程短縮・共通化、作業順序の改善等） 使用する材料の共通化による下処理工程の短縮 調理手順、グラム数、盛り付けなどの標準化による、品質の均一化</p> <p>④ 事務作業のデジタル化・DX</p> <p>⑤ 機器・設備の自動化、省力化 スチームコンベクションオーブンの導入により、揚げる以外の調理が一度に大量に可能となる。 急速冷凍機の導入により、事前の仕込みが可能になる</p> <p>⑥ その他</p> <p>(3)実施体制 プロジェクトリーダー：調理部門責任者 調理担当者が各機器の使用方法を習得する。 仕込み工程の見直し、献立の改善、調理方法の標準化は調理部門責任者と各調理担当者の相談のうえ実施する。</p> <p>(4)計画の実施スケジュール 令和8年9月 機材発注、仕込み工程の見直し 令和8年10月 機材据え付け 令和8年11月 本稼働</p>
4 計画のうち、補助事業として取り組む内容	<p>(1) 導入する機器、システム等の概要 スチームコンベクションオーブン</p> <p>(2) 機器、システム等の名称、数量 〇〇社製 AB-C型スチームコンベクションオーブン</p> <p>(3) 機器、システム等の導入部署と活用方法等 調理部門に導入し、揚げる以外の調理で使用</p>

5 補助事業の実施により期待される効果	(1)定量的効果 (削減労働時間)																							
	削減労働時間(月間)	積算根拠																						
	【A-B】 50時間	導入前【A】	フライパンで焼く工程の調理時間： 60時間/月 〈内訳〉 60食/日を調理する場合 12回転(1回5食分)×調理時間15分×20日=60時間/月																					
		導入後【B】	オーブンで焼く工程の調理時間： 10時間/月 〈内訳〉 60食/日を調理する場合 2回転(1回30食分)×調理時間15分×20日=10時間/月 オーブン利用中は他の作業が可能 揚げる以外の調理にも利用可能																					
	(2)定性的効果 (人手不足の緩和、人員の効率的な配置、高付加価値業務へのシフト、残業時間の縮減等) 下処理時間の捻出により人手不足の緩和、労働時間の削減 オーブンの活用による調理品質の均一化																							
6 補助事業のスケジュール	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>時期</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交付決定</td> <td>令和8年8月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>発注</td> <td>令和8年9月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>納品</td> <td>令和8年10月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>運用</td> <td>令和8年11月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果検証</td> <td>～令和9年1月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績報告</td> <td>令和9年2月</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			項目	時期	備考	交付決定	令和8年8月		発注	令和8年9月		納品	令和8年10月		運用	令和8年11月		効果検証	～令和9年1月		実績報告	令和9年2月	
項目	時期	備考																						
交付決定	令和8年8月																							
発注	令和8年9月																							
納品	令和8年10月																							
運用	令和8年11月																							
効果検証	～令和9年1月																							
実績報告	令和9年2月																							
7 生産性向上により得られる成果の活用目標 *1	(1)自社の成長に向けた投資 (設備増強、人員増、商品開発・改良等) 仕込み作業の効率化に向けた調理機器の更新 高付加価値製品の開発 (2)従業員の待遇関係 (労働時間短縮、賃上げ等) 販売数量増加による賃上げ (3)その他																							
8 専門家等の意見 *2																								

*1 補助事業の成果だけでなく、生産性向上計画全体の成果について記載すること。

*2 福島県専門家活用経営支援事業 (生産性向上推進枠) による専門家派遣又は生産性向上支援センターによる支援を受けている場合に記載すること。

生産性向上計画書 【記載例】

1 事業者名	〇〇〇〇食堂
2 計画策定の背景・必要性	ホールスタッフは、注文受け、レジ等のほか、簡単な盛り付け作業や調理後の配膳作業を行うこととしている。しかし、昼食時などの混雑時には注文・レジで手一杯となり、厨房スタッフが配膳等まで実施しており、厨房の負担が大きくなるとともに、料理提供が遅れる状況も生み出している。
3 計画の内容 ※(2)取組項目は該当ある部分のみ記載すること。	<p>(1)目的・概要等 ホールスタッフの注文・レジ業務を削減し、盛り付け・配膳に注力できる環境を作るほか、厨房スタッフを調理に専念させることで、料理提供時間を短縮し回転数を増加させる。また、顧客満足度の向上を図る。</p> <p>(2)取組項目</p> <p>① 作業環境の整備（5Sによるムダ・ミス削減、安全向上等） キャッシュレス対応券売機の導入により、ホールスタッフの現金取り扱いを無くすほか、注文間違いの削減を図る。</p> <p>② 動線・レイアウトの改善 レジを券売機に置き換えることで、会計客の店内滞留を防止し、飲食中の来店客の満足度を向上させる</p> <p>③ 業務手順の見直し等（工程短縮・共通化、作業順序の改善等） 券売機で購入されたものが厨房へ自動発注されることにより、商品提供時間を短縮する。</p> <p>④ 事務作業のデジタル化・DX 売上データを自動集計し、材料仕入れの最適化を図るほか、注文傾向を分析し新規メニューの開発に取り組む。</p> <p>⑤ 機器・設備の自動化、省力化</p> <p>⑥ その他</p> <p>(3)実施体制 現場責任者：代表者 設置業者との打合わせは代表者が対応する。 券売機の操作は簡易なものであるため、ホールスタッフが習得する。 データの取り扱い、分析は代表者が対応する。</p> <p>(4)計画の実施スケジュール 令和8年9月上旬～ 券売機の発注 令和8年9月下旬 納入・据付 令和8年10月 本稼働</p>
4 計画のうち、補助事業として取り組む内容	<p>(1)導入する機器、システム等の概要 キャッシュレス対応券売機</p> <p>(2)機器、システム等の名称、数量 〇〇〇社製 〇〇〇—〇型 1台</p>

	(3)機器、システム等の導入部署と活用方法等 店頭へ導入し、既存レジを代替する																					
5 補助事業の実施により期待される効果	(1)定量的効果（削減労働時間）																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>削減労働時間(月間)</th> <th colspan="2">積算根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">【A-B】 82.5時間</td> <td>導入前【A】</td> <td>ホールスタッフの作業時間：145時間/人月 〈内訳〉 レジ対応1分、注文対応1分、配膳・片付け対応1分半 1日の平均来店客数100組 月営業日数25日 $210秒 \times 100 \times 25 = 8,750分 = 145時間/月$</td> </tr> <tr> <td>導入後【B】</td> <td>ホールスタッフの作業時間：62.5人・時間/月 〈内訳〉 配膳・片付け対応1分半 1日の平均来店客数100組 月営業日数25日 $90秒 \times 100 \times 25 = 3,750分 = 62.5時間/月$</td> </tr> </tbody> </table>	削減労働時間(月間)	積算根拠		【A-B】 82.5時間	導入前【A】	ホールスタッフの作業時間：145時間/人月 〈内訳〉 レジ対応1分、注文対応1分、配膳・片付け対応1分半 1日の平均来店客数100組 月営業日数25日 $210秒 \times 100 \times 25 = 8,750分 = 145時間/月$	導入後【B】	ホールスタッフの作業時間：62.5人・時間/月 〈内訳〉 配膳・片付け対応1分半 1日の平均来店客数100組 月営業日数25日 $90秒 \times 100 \times 25 = 3,750分 = 62.5時間/月$													
	削減労働時間(月間)	積算根拠																				
【A-B】 82.5時間	導入前【A】	ホールスタッフの作業時間：145時間/人月 〈内訳〉 レジ対応1分、注文対応1分、配膳・片付け対応1分半 1日の平均来店客数100組 月営業日数25日 $210秒 \times 100 \times 25 = 8,750分 = 145時間/月$																				
	導入後【B】	ホールスタッフの作業時間：62.5人・時間/月 〈内訳〉 配膳・片付け対応1分半 1日の平均来店客数100組 月営業日数25日 $90秒 \times 100 \times 25 = 3,750分 = 62.5時間/月$																				
(2)定性的効果（人手不足の緩和、人員の効率的な配置、高付加価値業務へのシフト、残業時間の縮減等） 削減労働時間は①店内美化、②ホールスタッフも取り扱いができる新メニュー追加が可能となり、顧客満足度の向上及び付加価値向上につながると期待される。																						
6 補助事業のスケジュール	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>時期</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交付決定</td> <td>令和8年9月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>発注</td> <td>令和8年9月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>納品</td> <td>令和8年9月下旬</td> <td></td> </tr> <tr> <td>運用</td> <td>令和8年10月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果検証</td> <td>～令和9年1月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績報告</td> <td>令和9年2月</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	時期	備考	交付決定	令和8年9月		発注	令和8年9月		納品	令和8年9月下旬		運用	令和8年10月		効果検証	～令和9年1月		実績報告	令和9年2月	
項目	時期	備考																				
交付決定	令和8年9月																					
発注	令和8年9月																					
納品	令和8年9月下旬																					
運用	令和8年10月																					
効果検証	～令和9年1月																					
実績報告	令和9年2月																					
7 生産性向上により得られる成果の活用目標 *1	(1) 自社の成長に向けた投資（設備増強、人員増、商品開発・改良等） 注文データの分析による需要予測と需要に応じた新商品開発を実施する																					
	(2) 従業員の待遇関係（労働時間短縮、賃上げ等） 回転数の増加及び注文単価の増による売り上げ増と賃上げを図る																					
	(3)その他																					
8 専門家等の意見 *2																						

*1 補助事業の成果だけでなく、生産性向上計画全体の成果について記載すること。

*2 福島県専門家活用経営支援事業（生産性向上推進枠）による専門家派遣又は生産性向上支援センターによる支援を受けている場合に記載すること。

生産性向上計画書 【記載例】

1 事業者名	株式会社〇〇〇〇
2 計画策定の背景・必要性	大型製缶や鉄骨製造を行っているが、受注量拡大に向けては製作物の工程間移動がネックとなっていることから、製造工程の見直しが必要となった。
3 計画の内容 ※(2)取組項目は該当ある部分のみ記載すること。	(1)目的・概要等 製造工程の見直しを行い、工程間移動の効率化によるタクトタイムの短縮及び受注量の拡大を目指す。
	(2)取組項目 ① 作業環境の整備（5Sによるムダ・ミス削減、安全向上等） クレーン車を使用した製作物の移動を廃止し、作業時の安全性を向上させる
	②動線・レイアウトの改善 天井クレーンを建屋に設置し、工程間での製作物の移動に係る効率を向上させる
	③業務手順の見直し等（工程短縮・共通化、作業順序の改善等） グラインダーで行っている表面処理を、ファイバーレーザー溶接機を導入することで、所要時間を短縮させる
	④事務作業のデジタル化・DX
	⑤機器・設備の自動化、省力化
⑥その他	
(3)実施体制 製造責任者をリーダーとし、各工程の担当者を交えて天井クレーン導入に伴うレイアウト変更を行う。 溶接工程の担当者は新溶接機の習得を進める。	
(4)計画の実施スケジュール 令和8年10月 天井クレーン、溶接機の発注 必要資格の取得 令和8年12月 天井クレーンの据付工事、溶接機の導入 レイアウト・工程見直し着手 令和9年1月 本稼働	
4 計画のうち、補助事業として取り組む内容	(1)導入する機器、システム等の概要 天井クレーン
	(2)機器、システム等の名称、数量 〇〇社製天井クレーン
	(3)機器、システム等の導入部署と活用方法等 天井クレーン：製作物の工程間移動 製造部門全体で導入

<p>5 補助事業の実施により期待される効果</p>	<p>(1)定量的効果（削減労働時間）</p> <table border="1" data-bbox="544 248 1353 860"> <tr> <th data-bbox="544 248 719 309">削減労働時間(月間)</th> <th colspan="2" data-bbox="719 248 1353 309">積算根拠</th> </tr> <tr> <td data-bbox="544 309 719 584"> <p>【A-B】 80時間</p> </td> <td data-bbox="719 309 836 584"> <p>導入前 【A】</p> </td> <td data-bbox="836 309 1353 584"> <p>製作物移動の作業時間：100人・時間/月 <内訳> クレーン車を使用した移動 15分×4人×5回/日×20日 =100人・時間/月</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="544 584 719 860"></td> <td data-bbox="719 584 836 860"> <p>導入後 【B】</p> </td> <td data-bbox="836 584 1353 860"> <p>製作物移動の作業時間：20人・時間/月 <内訳> 天井クレーンを使用した移動 6分×2人×5回/日×20日 =20人・時間/月</p> </td> </tr> </table> <p>(2)定性的効果（人手不足の緩和、人員の効率的な配置、高付加価値業務へのシフト、残業時間の縮減等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創出された時間で技能向上のための訓練の実施 ・人工の削減による本来業務への注力による高品質化 ・作業効率化による工期短縮と受注許容量の増加 	削減労働時間(月間)	積算根拠		<p>【A-B】 80時間</p>	<p>導入前 【A】</p>	<p>製作物移動の作業時間：100人・時間/月 <内訳> クレーン車を使用した移動 15分×4人×5回/日×20日 =100人・時間/月</p>		<p>導入後 【B】</p>	<p>製作物移動の作業時間：20人・時間/月 <内訳> 天井クレーンを使用した移動 6分×2人×5回/日×20日 =20人・時間/月</p>												
削減労働時間(月間)	積算根拠																					
<p>【A-B】 80時間</p>	<p>導入前 【A】</p>	<p>製作物移動の作業時間：100人・時間/月 <内訳> クレーン車を使用した移動 15分×4人×5回/日×20日 =100人・時間/月</p>																				
	<p>導入後 【B】</p>	<p>製作物移動の作業時間：20人・時間/月 <内訳> 天井クレーンを使用した移動 6分×2人×5回/日×20日 =20人・時間/月</p>																				
<p>6 補助事業のスケジュール</p>	<table border="1" data-bbox="544 1155 1353 1435"> <thead> <tr> <th data-bbox="544 1155 703 1193">項目</th> <th data-bbox="703 1155 1082 1193">時期</th> <th data-bbox="1082 1155 1353 1193">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="544 1193 703 1232">交付決定</td> <td data-bbox="703 1193 1082 1232">令和8年9月</td> <td data-bbox="1082 1193 1353 1232"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="544 1232 703 1270">発注</td> <td data-bbox="703 1232 1082 1270">令和8年10月</td> <td data-bbox="1082 1232 1353 1270"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="544 1270 703 1308">納品</td> <td data-bbox="703 1270 1082 1308">令和8年12月</td> <td data-bbox="1082 1270 1353 1308"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="544 1308 703 1346">運用</td> <td data-bbox="703 1308 1082 1346">令和9年1月～</td> <td data-bbox="1082 1308 1353 1346"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="544 1346 703 1384">効果検証</td> <td data-bbox="703 1346 1082 1384">令和9年1月</td> <td data-bbox="1082 1346 1353 1384"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="544 1384 703 1435">実績報告</td> <td data-bbox="703 1384 1082 1435">令和9年2月</td> <td data-bbox="1082 1384 1353 1435"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	時期	備考	交付決定	令和8年9月		発注	令和8年10月		納品	令和8年12月		運用	令和9年1月～		効果検証	令和9年1月		実績報告	令和9年2月	
項目	時期	備考																				
交付決定	令和8年9月																					
発注	令和8年10月																					
納品	令和8年12月																					
運用	令和9年1月～																					
効果検証	令和9年1月																					
実績報告	令和9年2月																					
<p>7 生産性向上により得られる成果の活用目標 *1</p>	<p>(1)自社の成長に向けた投資（設備増強、人員増、商品開発・改良等）より高付加価値製品の受注に向けて、創出した時間を従業員の技能向上訓練に充てる</p> <p>(2)従業員の待遇関係（労働時間短縮、賃上げ等）受注増による賃上げを図る</p> <p>(3)その他</p>																					
<p>8 専門家等の意見 *2</p>																						

*1 補助事業の成果だけでなく、生産性向上計画全体の成果について記載すること。

*2 福島県専門家活用経営支援事業（生産性向上推進枠）による専門家派遣又は生産性向上支援センターによる支援を受けている場合に記載すること。